維新・藤田共同代表 スクープ 重大疑惑

やく・みつるの小言・大言

その804

しんぶん赤旗 日曜版　2025年11月2日

維新・藤田共同代表 重大疑惑

スクープ

公設秘書側に公金2千万円

「身を切る」どころか 身内へ税金還流

藤田氏側による身内への税金還流の構図

日本維新の会の藤田文武共同代表側による身内への税金還流疑惑を報じた「赤旗」日曜版（11月2日号）

NHK世論調査 裏金議員起用 7割が「反対」

NHKの世論調査（11～13日実施）によると、高市早苗新総裁が発足させた自民党新執行部の人事について、「あまり評価しない」の33％と「まったく評価しない」の29％を合わせ、「評価しない」が6割を超えました。

派閥裏金事件に関与していた萩生田光一元政調会長が幹事長代行に起用されたことを受けて、政治資金収支報告書への不記載があった議員（裏金議員）の党役員や閣僚への起用に「反対」は69％に上り、「賛成」の17％を大きく上回りました。

高市総裁に最優先で取り組んでほしいことでは「物価高対策」が43％と最も高く、次いで「政治とカネの問題」が16％、「社会保障・少子化対策」が14％などとなっています。

『資本論』と現代を語る

志位議長と斎藤幸平氏の対談から

日本共産党の志位和夫議長と、マルクス研究者の斎藤幸平東京大学准教授がインターネットメディア「ＲｅＨａｃＱ」（リハック）で行った対談「マルクス『資本論』の真実」（前半部分は10月24日、後半部分は30日に配信）から要点を連載で紹介します。

対談は配信直後から大反響を呼び、11日間で46万回（11月4日午後7時現在、前後半の合計）視聴されています。「バリバリの資本主義者ですが、このような話は貴重。大変勉強になりました」「愛国心のある右派だが、今回の動画はとても好き」など、多様な視聴者が計3654件のコメントを書き込んでいます。

斎藤氏は「ビッグ企画」の「超スペシャルゲスト」として志位氏を紹介。志位氏の著書『Ｑ＆Ａいま「資本論」がおもしろい』（赤本）と『Ｑ＆Ａ共産主義と自由』（青本）をベースにしながら、「大きな問題が山積みになった日本社会を変えるためにも、もう一つ大きな視点が必要なんじゃないかということで、われわれの専門でもあるマルクスにさかのぼって、2時間たっぷり、お話をうかがいたい」と切り出しました。

連載スタート

あれにいこ

スパイ防止法

極端な思想の公務員は辞めてもらわないといけない。まず高市総理だな

―国民　松阪・わっさん

この紙面は「しんぶん赤旗」の切り抜き記事です。

メディアを読む

沢木　啓三

公明党の連立政権離脱で、政局が一気に流動化。自民党と日本維新の会は急速に距離を狭めて、連立政権づくりに向けた基本合意に至りました。

しかし、維新の会は自公政権との対立姿勢を強調していたはずです。1年前、昨年10月25日付毎日新聞によると、当時の日本維新の会の馬場伸幸代表が「政治とカネ」問題への自民の姿勢について批判。「今の状況では一緒にやっていくことは不可能だ」として連立政権入りを否定していました。

維新の会の吉村洋文代表は16日、テレビ朝日「報道ステーション」など各局のニュース番組に生出演しましたが、維新の会の態度変節について説明は聞かれませんでした。メディア側も追及不足の感がありました。

連立協議で維新側が突如「譲れない条件」として持ち出したのが国会議員定数の1割削減です。自民党が選挙で大敗したのは裏金問題が要因で、企業・団体献金の禁止が最大の政治課題だったはずです。公明の連立離脱も、この問題で自民党が難色を示したからでした。維新の会は当初、企業・団体献金禁止を優先政策に挙げていましたが、ここでも変節ぶりを見せました。

維新"変節"に厳しい目線

これについて、18日のTBS「報道特集」では、政治ジャーナリストの後藤謙次氏が「論点のすり替え」と批判。同日の東京新聞も「連立合意に向けたハードルを下げる思惑が透けて見える」と分析していました。

19日のTBS「サンデーモーニング」でコメンテーターの谷口真由美氏は、「日本の国会議員は多いわけではない」「定数削減で割を食うのは地方」「ものすごく危ない話」と、議員定数削減が大きな問題をはらんでいることを強調していました。

権力者たちの「数合わせ」に振り回されるのではなく、庶民の目線から政策を厳しくチェックすることが、メディアに期待されている役割です。（さわき・けいぞう＝ジャーナリスト）